

未来への バトン

私たちが受け継ぎ、そして引き渡していくもの

みなべSDGs未来都市・広報誌 第1号（隔月発行予定）



「南高梅の母樹」（たかだ果園・晩稲園地内）
写真提供：梅の里カメラクラブ・小山智久さん



林秀行さん

～ 紡ぐ記憶、馳せる想い ～

このコーナーでは、この町を「支えてきた」「支えている」「支えていく」方々に、「未来へのバトン」～私たちが受け継ぎ、そして引き渡していくもの～というテーマでお話を伺います。第1回目は、平成27年度まで役場のうめ課長を務められた林秀行さんにお話を伺いました。

「17年間もうめ課長をされたのですね。」

「振り返ったら長いことさせてもうたと思うよ。」

「うめ課はいつどのようにして誕生したのですか？」

「わしが南部川村役場へ入る前の年の昭和48年にできたんや。当時の井口固村長が「梅に打ち込んでいこう」と口火を切ったのが始まり。異色の課として話題になっていた千葉県松戸市の「すぐやる課」に職員を派遣し、参考にしたと聞いている。」

「うめ課の歩みとともにこの梅産地は大きく発展してきたわけですが、その要因は何であったと思われますか？」
「やっぱり梅干しを食べやすくした「味付け梅」やと思う。そこから一気に梅干しが売れて。その頃の景気はそれは良かった。NHKスペシャルで「所得の伸び率日本一の市町村」として取材に来て。放送後の反響は凄かった。全国各地から視察の依頼が殺到したんや。」

「その後、林さんがうめ課長になられた頃の状況は？」

「うめ課長になった頃は順調やったんやけど、その後、梅干しの原料取引価格が下がりだして「これはなんとかせなあかん」という時代で。うめの消費量下がってきてるから、梅を作るのも大事やけど、みんながセールスマンになって梅のPRをしていこうなど、ちょうどそのような大変な頃やった。」

「梅産業が「作れば売れる」の右肩上がり一辺倒ではない時代に突入したわけですね？」

「梅産業っていうのは、ほんまに山あって谷あって、これの繰り返しなんや。でも絶対に負けずに這い上がってきたんや。不思議なね、ほんまに梅パワーやとわしは思う。」

「食中毒予防で梅干しが売れたり、何度も梅産業にとって「神風が吹く」みたいなことが起こりました。」

「それに梅エキ스가血液サラサラ効果でテレビに取り上げられたり、あと熱中症予防の塩分補給。少し前では梅干しでダイエット。テレビで取り上げられて爆発的に売れた。」

「早くから梅の効能研究に力を入れてきましたね？」

「山田村長がね、梅の言い伝えを医学的に証明したいと。それで当時和歌山県立医大の宇都宮洋才先生を紹介して貰って。初め、先生とは夜中の2時、3時まで激論をしたこともありました。他にも多くの先生にもご協力をいただきました。」

「梅とスポーツのつながりもできましたね？」

「そう、日体大でね。箱根駅伝、どうしても冬場よ。健康管理が大変でベストメンバーで大会へ出るのが難しい。監督を紹介してもらって、健康管理ということで梅酢と梅干しを寮で取り入れてもらたんよ。そしたら30年ぶりに優勝して。記念の南高梅の木が今でも日体大の正面玄関にある。梅は、たまたまやけど、その時代時代にバシッとハマる、ハマった。そこはやっぱり凄いと思う。」

「まだまだ色々ありました。世界農業遺産認定もそうです。」

「初めは「それとったら梅干し売れるんか？」と聞かれるんが辛かった。「認定されたらいろいろ制約があるんと違うか？」とか。そうじゃないんやと。400年かけて先人がね、色んな努力をして、南高梅を見つけたり、味付け梅を開発したりとか、そういう努力やって、この産地を守って守っていくことに想いがあって。やっと梅で生活できるようになった。それを世界が認めてくれたんや。これは残していかなね。」

「今回「未来へのバトン」というテーマなんですが、林さんが次の世代につなげたいと願うものは？」

「やっぱり梅という大きな特産物がね、次世代にバトンタッチできるような、こんな凄いもんないと思うんよ。今いろんな問題があるけど、それでももっとやり方があるはずや。だから弱気にならんといほしい。400年これまでの人も辛抱したんやで。そういう中でいろんなことを改革してくれて。だからそういう気持ちをつなげてほしいなど。梅っていったら、みなべ、田辺がリーダーなんやから。」

SDGs を知っていますか

SDGs（持続可能な開発目標）は、世界中の人々が安心して暮らし続けられる社会を 2030 年までに達成するための 17 の目標のことです。2015 年に国連サミットで採択されました。

みなべ町でも、豊かな自然や産業を未来へつなぐために、様々な取り組みが始まっています。



SDGs 未来都市に選定されました

令和 6 年 5 月、みなべ町は内閣府から「SDGs 未来都市」、さらに全国でも先進的な取り組みが評価され「自治体 SDG モデル事業」に選定されました。

梅産業や自然等、地域資源を活かした持続可能な町づくりを進めています。

令和 8 年度までに全国で 220 の自治体が選定されています。



みなべ梅ラーニングコモンズ・8 グループの紹介

町民のみなさん、職員が集まり、8 つのグループで「未来へボタン」をつなごうと活動しています。

その 8 つのグループの取り組みの概要を紹介します。

次号以降にそれぞれのグループの取り組みを詳しく紹介していきます。



未来デザイン

「みなべ SDGs 未来都市」によってどんな未来が創造できるのか。わかりやすく伝え、町への愛着と自信を増すことに貢献します。



南部高校でのキックオフイベント



梅で健康・梅モグ

梅を使った新しい料理の開発、食育イベント、レシピの発信など、「梅をもっと身近に感じてもらおう活動」をしています。



滋賀の食文化研究会との交流



梅で健康・都市

都市部の人に梅の効能や魅力を伝え、梅やみなべ町のファンづくり、梅市場の拡大、来町者の増加に貢献します。



関西万博・ジュニア SDGs キャンプ



梅で健康・若者

若年層に向けて梅干し・梅関連商品の需要を開拓し、梅栽培の認知を高めるため、関西の大学生と力を合わせて活動しています。



関西の大学生と交流会兼研修会



梅で健康・海外

みなべ町の魅力や梅の効能を海外に発信するとともに、町内に暮らす外国人との交流の場を設ける活動に取り組んでいます。



上海にてみなべ町と梅酒を PR



バイオ炭

毎年大量に発生し処分している梅剪定枝をバイオ炭化し、CO2 の削減や土づくりに役立てる取り組みを進めています。



関係者による勉強会



環境に優しい農業

環境保全型農業を広げていくために、意見交流の場や研修の機会を作っていきます。



梅畑での研修



ミツバチと生物多様性

ミツバチや小さな生き物たちが住みやすい環境を守ることは、人も住みやすく、梅の生産量の安定にもつながります。



いきもの調査



編集者がおすすめする 1 冊！

『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』¥1930

「子どもから大人まで、SDGs の入門書としておすすめします！カラーのイラストや画像がたくさんあり、とても分かりやすく優しくまとめられています。素晴らしいのは SDGs の 17 の目標について世界中の様々な事例が紹介されていて、SDGs の理念を楽しみながら理解することができます。」